



にしだ小児クリニック併設 病児保育室 クオレ

手足口病 / マイコプラズマ肺炎

流行のお知らせ

<p>手足口病</p>	<p>手足口病は、毎年、夏に流行のピークを迎えますが、最近、見受けられるのは、1か月のうちに、2回も感染されるお子様です。</p> <p>＜症状＞ 感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2～3mmの水疱性発疹が出ます。発熱してもあまり高くなり、高熱が続くことはほとんどありません。大抵は、数日間のうちに治ります。</p> <p>◆ まれに髄膜炎や脳炎など中枢神経系の合併症などが起こる場合がありますので、経過観察をしっかりと行う必要があります。高熱が出る、発熱が2日以上続く、嘔吐する、頭を痛がる、視線が合わない、呼びかけに答えない、呼吸が速くて息苦しそう、水分が取れずにおしっこが出ない、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。</p> <p>＜感染経路＞ 飛沫感染、接触感染、糞口感染(便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染すること)が知られています。</p> <p>＜予防＞ 治った後も、比較的長い期間、便などからウイルスが排泄されることがあるので、日常のしっかりとした手洗いが大切です。手洗いは流水と石けんで十分に行い、タオルの共用は避けましょう。マスクの着用も心がけましょう</p>
<p>マイコプラズマ肺炎</p>	<p>例年、報告されるもののうち約80%は14歳以下ですが、成人の報告もあります。マイコプラズマ肺炎は1年を通じてみられ、秋冬に増加する傾向があります。</p> <p>＜症状＞ 主な症状は、発熱、全身の倦怠感、頭痛、せきなどです。せきは熱が下がった後も長期にわたって(3～4週間)続くのが特徴です。</p> <p>◆ 多くは気管支炎で済み、軽い症状が続きますが、一部の人は肺炎となったり、重症化したりすることもあります。また、5～10%未満の方で、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されています。</p> <p>＜感染経路＞ 保育施設、学校、家庭など閉鎖的環境での感染が多く、短時間での感染拡大は高くありません。濃厚接触によることが多いと考えられます。</p> <p>＜予防＞ 日常の手洗いは流水と石けんで十分に行い、タオルの共用は避けましょう。せきの症状がある場合には、マスクを着用するなどして、周囲への心配りも忘れないようにしましょう</p>